

CHANGE

ヒートポンプ・蓄熱システム
先進導入事例集

「蓄える」という視点で
エネルギーの明日を考えます。



脱炭素社会へ変えるヒートポンプ・蓄熱システム



ヒートポンプ・蓄熱システムの普及促進と、
技術向上に向けた事業を展開します。

ピーク電力削減と省エネルギーにすぐれ、環境保全に貢献するヒートポンプ・蓄熱システム。当財団では、このシステム・技術の普及啓発、調査、研究などを積極的に行っています。また国際活動にも活発に取り組んでおり、「ヒートポンプ」と「蓄熱」に関するわが国唯一のナショナルセンターとして活躍しています。「蓄える」という視点でエネルギーの明日を考える”をコンセプトに、環境にやさしく経済的なこのシステムの普及を推進しています。

 一般財団法人 ヒートポンプ・蓄熱センター

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目28番5号ヒューリック蛸殻町ビル6階
TEL:(03)5643-2402 FAX:(03)5641-4501

<http://www.hptcj.or.jp>

ヒートポンプ・蓄熱センター 検索



- 最新事例1 医療法人 上野(あがの)病院
- 最新事例2 天然温泉 湯楽部 太田店
- 最新事例3 ホテル函南・かなみスプリングスカントリークラブ
- 最新事例4 有限会社遠藤きのこ園



3つの視点で持続可能な社会を実現する ヒートポンプ・蓄熱システム

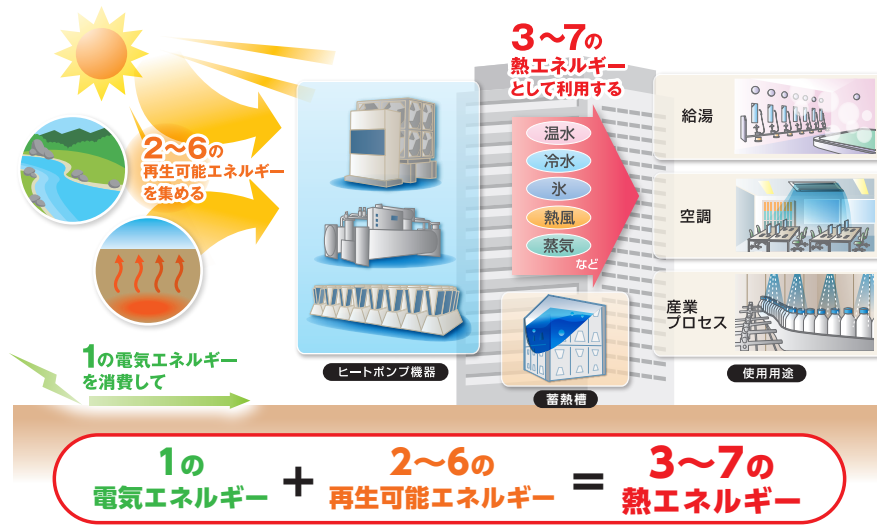
POINT 1 再生可能エネルギーの活用で、さらなる省エネルギーを

ヒートポンプ機器は“1”の電気エネルギーで
“3~7倍”の熱エネルギーの利用が可能!

自然の熱を「集めて」利用するから高効率

すべてのヒートポンプ機器は“熱と圧力の性質”を利用して、空気や水などから自然の熱(再生可能エネルギー)を「集めて」、必要などころに「運ぶ」ことによって、空気や水や物などを暖めたり冷やしたりしています。これによって暖房や冷房や給湯をはじめ、工場の製造工程にも利用されているのです。

電気エネルギーだけではなく、再生可能エネルギーを「集めて」熱を作るから高効率な運転が可能なのです。



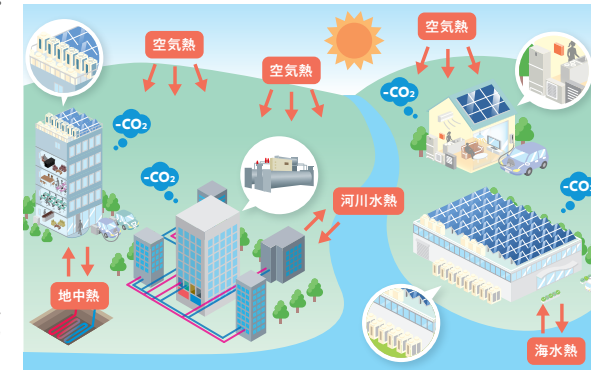
ヒートポンプ機器の活用で
再生可能エネルギー※の利用を促進!

空気や河川、地中などの熱を有効利用

ヒートポンプ機器は、空気をはじめ河川や地中、海水など、気温とほとんど気温差がないので、そのままでは利用できない熱を「集めて」高温の熱として利用したり、低温の熱として利用することができます。これがヒートポンプの非常に優れた特徴です。

また、ヒートポンプが集める熱は太陽によって、くり返し暖められる再生可能エネルギーなので、空調や給湯に必要な燃料消費量やCO₂排出量を大幅に削減することができるのです。

※「エネルギー供給構造高度化法」(2019年施行)により、ヒートポンプで利用する空気熱や河川水等の熱は再生可能エネルギーと定義されています。



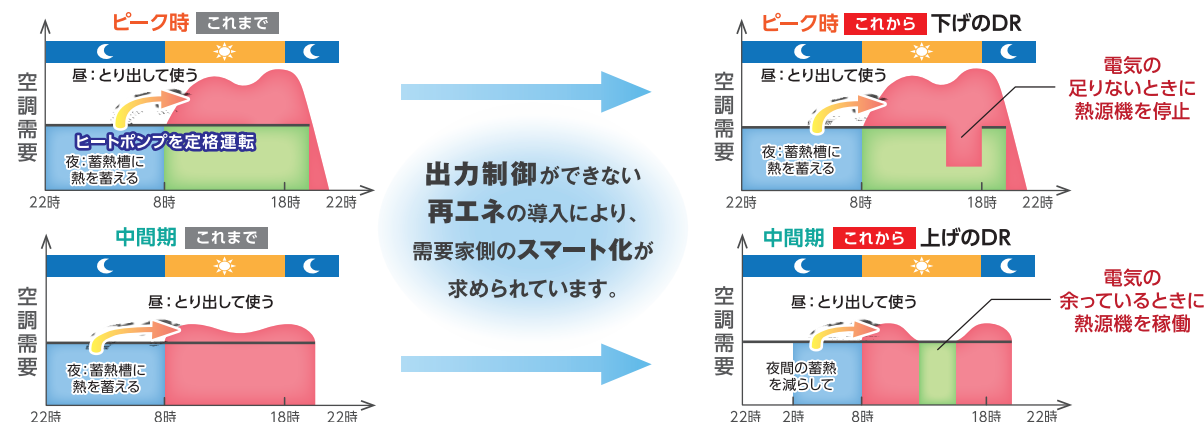
POINT 2 再生可能エネルギー主力時代の電力系統オペレーションに対応

再生可能エネルギーの有効活用で経済的で持続可能な社会を実現!

蓄熱システムの柔軟な運用がディマンドレスポンスのカギ

持続可能な社会の実現には、再生可能エネルギーの主力電源化が必要ですが、「自然環境に応じて出力が変動する」という特徴に応じた対策が必要です。その対策の一つがディマンドレスポンス(DR)。需要家側設備を制御し、電力需要パターンを変化させることです。ヒートポンプ・蓄熱システムは、電気エネルギーを効率よく熱エネルギーに変換・蓄積し、必要な時に熱を取り出すシステムであることから、DRへの活用が期待されています。

ヒートポンプ・蓄熱システムによるDR活用イメージ



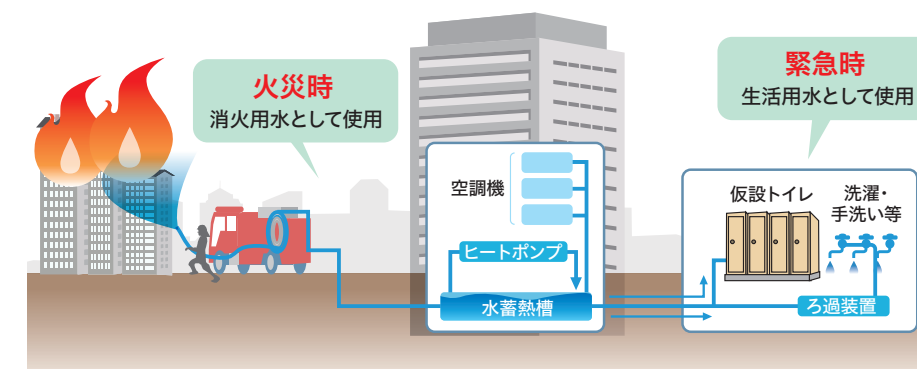
POINT 3 災害時の蓄熱槽水活用でレジリエンスな街づくり

非常災害時には生活用水や消防用水として利用が可能!

蓄熱システムの防災力にも注目

エネルギーと共に“水”の確保は災害時の最重要課題の一つです。蓄熱槽に蓄えた水は、非常災害時にトイレなどの生活用水や火災時の消火用水として利用することができ、レジリエンス(強靭)な街づくりの一翼を担います。

蓄熱槽水の利用イメージ



医療福祉施設

最新事例1

医療法人上野(あがの)病院

4



宿泊・温浴施設

最新事例2

天然温泉 湯楽部 太田店

6



宿泊・温浴施設

最新事例3

ホテル函南・かんのみ
スプリングスカントリークラブ

8



産業

最新事例4

有限会社遠藤きのこ園

10



医療法人 上野病院南館

医療法人 上野(あがの)病院

業務用ヒートポンプ給湯機と循環加温式ヒートポンプの導入で、省コスト&安定供給を実現

心のかよう病院を目指して、患者さん本意の医療を提供

医療法人 上野病院は、福岡県田川郡福智町の豊かな自然に囲まれた丘陵地帯に建っている。1970年の設立から現在まで地域医療の中核を担い、2022年3月、管理棟と病棟を併設する南館が開院した。診療科目は、内科、心療内科、胃腸内科、精神科、リハビリテーション科で、病床数194床、職員数は150名。自然豊かな立地環境に配慮して給湯と空調設備には、環境負荷の低減を図るためヒートポンプシステムを採用している。

「当医院は、四季の移り変わりを感じながら、のんびりと落ち着いた療養・養生ができる環境にあります。心のかよう病院を目指し、患者さん本意の医療を提供しています」と長井啓介院長は話す。

北館病棟の給湯設備を灯油ボイラからヒートポンプにリニューアル

南館に隣接する北館は、1998年に建てられてからすでに20年以上が経過し、給湯設備のリニューアルを計画していた。

「給湯設備の老朽化が進んでいたため、灯油ボイラから電気式のヒートポンプ給湯機に切り替えたいと考えていた。南館の改築を手がけた株式会社永和ビルテックの山下貢一郎氏に相談したところ、ヒートポンプの導入に際し、国からの補助金が受けられるという話を聞き、さっそく補助金の申請を行った」と話すのは、上野病院広報・経理係長の島田裕二氏。結果、令和2年度産業・業務部門における高効率ヒートポンプ導入

促進事業費補助金を受け、2021年12月に業務用ヒートポンプ給湯機と循環加温式ヒートポンプを導入した。

今回、ヒートポンプを導入した理由には、補助金を受けられることもあるが、病院のオーナーが地球温暖化などの環境問題に関心が高く、電気式の設備へ切り替えたいという意向も大きかったと島田氏は話す。

ヒートポンプの導入でエネルギー費を削減、管理・安全面での負担が減った

ヒートポンプ給湯システムは、2021年12月に運用を始めてから一度も湯切れすることなく、北館病棟浴室の給湯用として安定稼働を続けている。

ヒートポンプ導入後の2022年4月から6月と、毎月約2,000ℓの灯油を消費していた前年の2021年4月から6月までの燃料費を比較すると、電力の使用量が増えた代わりに、灯油の使用量がゼロになったため月16万円程度の節約になっているという。また、灯油



医療法人 上野病院 院長 長井啓介氏



ヒートポンプを導入した北館



北館屋上に設置された循環加温式ヒートポンプチャラー(手前)と業務用ヒートポンプチャラー(奥2台)



循環加温式ヒートポンプチャラーの貯湯タンク

導入のポイント

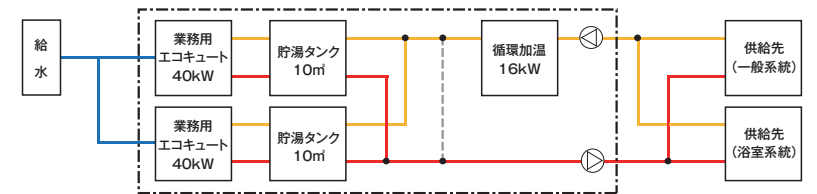
- 1 豊かな自然環境を考慮した給湯システムの選択
- 2 国からの補助金の活用
- 3 安心・安全な設備運用

活用した補助制度

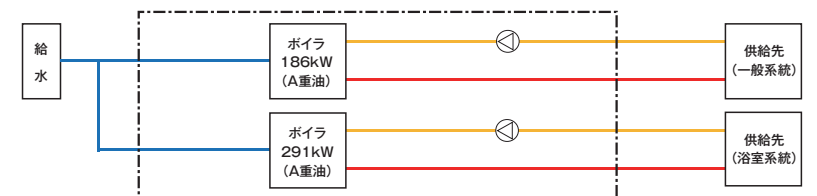
- ・令和2年度 産業・業務部門における高効率ヒートポンプ導入促進事業費補助金(環境共創イニシアチブ)

システム図

設備導入後のシステムフロー



既存システムフロー



ボイラからヒートポンプに切り替えたことで、安全面での負担が減ったことも見逃せない。導入前は灯油ボイラ立上げ時の安全確認を行っていたが、いまではそれも不要となり、設備管理の負担もラクになるなどのメリットも大きい。

さらなる省エネルギー、省コスト化のため、今後の運用が大きな課題

現在、2つの貯湯槽で各1,000ℓのお湯を60℃に設定して貯湯している。これは運用開始から設定を変えることなく、常に同じである。

「これまでのように一定の貯湯量や貯湯温度で運転するのではなく、時期によって変動する必要な湯量等を把握することで、さらなる省エネルギー、省コストを実現するのが課題。そのためには日々のデータを取ることもちろん、ヒートポンプについて学ばなければいけないことも多い」と島田氏は今後の運用改善に意欲を示す。

上野病院があつてよかったと地域の人たちに思われる病院を目指し、ヒートポンプの導入を皮切りに、将来はオール電化の施設とすることで、地球環境にも貢献したいと考えていると島田氏は話す。

INTERVIEW

高齢者の患者さんが多く、安全面に配慮

上野病院の患者さんのほとんどが高齢者の方です。補助金によるヒートポンプの導入で自然にも患者さんにもやさしく、安心・安全で、地域の人たちに信頼される病院にしたいと考えています。

医療法人上野病院 広報・経理係長 島田 裕二氏



ヒートポンプ導入のメリットを実感

燃料費の削減効果にびっくりしました。管理のしやすさなどの話を島田さんにお聞きして、省エネルギー以外のメリットも実感しています。安心・安全がより一層求められる病院だからこそ、ヒートポンプを導入してよかったと思います。

株式会社永和ビルテック 専務取締役 山下貢一郎氏



DATA

医療法人 上野病院
所在地：福岡県田川郡福智町上野3420
設備概要：業務用ヒートポンプ給湯機 40kW×2台(三菱電機)、循環加温式ヒートポンプ 16kW×1台(三菱電機)、貯湯槽1,000m³×2
交通：平成筑豊鉄道 市場駅より徒歩約15分
電話：0947-28-2182



湯楽部 太田店

天然温泉 湯楽部 太田店

天然温泉施設にヒートポンプ・蓄熱システムを導入し、省エネルギー、省コスト化を推進

地域の人たちの憩いの場となる 天然温泉の温浴施設をリニューアルオープン

アミューズメント事業やフィットネス事業を手掛けるNEXUS株式会社(群馬県高崎市)は、天然温泉施設の経営譲渡を受け、2012年4月、天然温泉・湯楽部 太田店としてリニューアルオープンさせた。敷地内には、同社が経営するパチンコ店、フィットネスクラブ、インターネットカフェ、カラオケ店などが隣接し、総合アミューズメントエリアとして生まれ変わった。

湯楽部 太田店は、岩風呂、壺湯、木化石風呂、檜の湯、家族風呂、モンゴル式サウナ、貸切家族風呂などの施設があるほか、カプセルホテルも併設され、宿泊も可能。幅広い年齢層のお客様にくつろぎと癒しの空間を提供し、地域の人たちの憩いの場となっている。

エネルギーコスト削減を目指して、ヒートポンプ・蓄熱システムを導入

2012年のオープン時は、以前の給湯設備をそのまま利用し、くみ上げた温泉を重油ボイラで加温・循環していたが、近年は設備の老朽化による重油ボイラの不具合発生やエネルギーコストの削減が課題となっており、設備の更新を検討していた。

「そんなときに同業を営む企業から(株)スマート・リソースを紹介していただき、相談したところ、ヒートポンプと蓄熱システムの導入でかなりのコスト削減効果が見込めるうえに、設備の更新で国からの補助金(令和2年

度産業・業務部門における高効率ヒートポンプ導入促進事業費補助金)を受けられるという話もあり、ヒートポンプ・蓄熱システムの導入を決めた」と話すのは、NEXUS株式会社レジヤ事業部 部長の宮嶋万貴美氏。宮嶋氏は、ヒートポンプを活用したエコキュートは知っていたが、温泉施設のような大量のお湯を使用する施設でヒートポンプを活用できることは知らなかったという。

新規導入したのは、空冷ヒートポンプチャラーと循環加温式ヒートポンプ。このほか、ガスボイラを新設し、ヒートポンプと併用して使うハイブリッド方式を採用した。

エネルギーコスト削減の実感と故障しないという安心感に満足

2022年1月末には給湯設備の設置工事が完了し、ハイブリッド方式による営業がスタートした。営業時間中のベース運転はヒートポンプを利用し、浴場へのお湯はりや利用者が多いピーク時は、ガスボイラによる追い焚きを行っている。しばらくは、ガスの使用量が思ったほど下がらなかったが、お湯の使用量に合わせ貯湯槽の温度を1度単位で調節し、試行錯誤した結果、現在のエネルギー費は、前年比で平均150万円程度のコストダウンになっているという。

「導入前は、電気やガスの料金単価が安いときに見積もりをしたので、料金単価が上がった現在とは単純に比較はできないが、設置後の運用改善で徐々にコスト



広々とした露天風呂



高濃度炭酸泉



空冷式ヒートポンプチャラーと貯湯槽



熱源タンクと循環加温ヒートポンプ(後方)



施設内に設置された温水ボイラ(ガス)

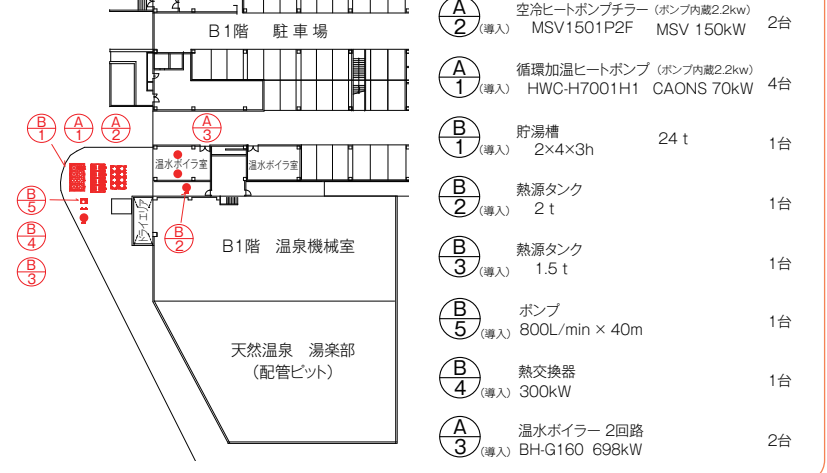
導入のポイント

- 1 エネルギーコストの削減
- 2 国からの補助金の活用
- 3 故障・メンテナンスの不安解消

活用した補助制度

・令和2年度 産業・業務部門における高効率ヒートポンプ導入促進事業費補助金(環境共創イニシアチブ)

設備導入後の配置図



ダウンを実感できた。また、故障が発生すると、修理が完了するまでは営業ができなくなるため、導入前は故障に対する不安があったが、設備が故障しないという安心感を得られたことも大きい(宮嶋氏)。

導入前は、「ボイラの種火を消してしまうと、再点火するか不安だった」と宮嶋氏は笑いながら話す。ヒートポンプ導入後、給湯設備のスタッフは、普段のこまめなチェックによる運用の改善が省エネルギーにつながることを理解するなど、社員の省エネルギーに対する意識も変わってきたという。

効果的な運用・管理を検討し、さらなる省エネルギーを目指したい

「太田市は、街中でも秋冬には水温が低下するため、お湯の焚き上げ等でエネルギー使用量がどの程度増えていくのか注意深く見守り、継続して運転データを取りながら、運用・管理を実践していきたい(宮嶋氏)。今後は給湯設備だけではなく、空調・照明設備の省エネルギーを検討し、お客さまにも安心してくつろいでいただける施設を目指したいと話す。

INTERVIEW

湯楽部 桐生店への導入も検討

2022年4月にリニューアルオープンした湯楽部 桐生店は、ガスボイラを使用していますが、給湯設備の更新が必要な時期が迫っています。太田店の省エネルギー実績のデータを参考に将来的には桐生店にもヒートポンプの導入を検討したいと考えています。

NEXUS株式会社レジヤ事業部 部長
宮嶋 万貴美氏



DATA

湯楽部 太田店
所在地: 群馬県太田市植木野町694-1
設備概要: 空冷ヒートポンプチャラー 150kW×2台(三菱重工)、貯湯槽24m³、循環加温ヒートポンプ 70kW×1台(東芝)、温水ボイラ(ガス) 698kW×2台
交通: 北関東自動車道 太田桐生ICより約5分
電話: 0276-50-2600



ホテル函南

ホテル函南・ かなみスプリングスカントリークラブ

ガスボイラの老朽化により、空冷式ヒートポンプを導入し、 省エネルギー、省CO₂、省コスト化を実現

駿河湾を見下ろす風光明媚な ロケーションに建つ多目的ホテル

ホテル函南を併設したかなみスプリングスカントリークラブ(以下かなみスプリングスCC)は、1989年にオープンした。ゴルフコース設計の名門ダイ・デザイン社が設計を手掛け、18ホール、パー72。四季折々の美しい景色に囲まれ、霊峰富士と駿河湾を望む、開放感あふれるリゾートコースとして人気が高い。

ホテル函南は、客室数107部屋で、どの部屋もゆったりできる広さが特徴。イベントや研修・会議など多目的な利用が可能であり、ゴルフを楽しむ人はもとより、家族連れでも楽しめる本格リゾートホテルである。

ガスボイラの老朽化に伴い、 空冷式ヒートポンプの導入を決定

2020年6月、ゴルフ場の支配人として赴任した佐藤勇作氏が最初に取り組んだのは、創業から30年以上が過ぎた施設の老朽化対策だった。なかでも、大浴場、調理場、客室への給湯を担うガスボイラ2台のうち1台に不具合が生じ、修理やメンテナンスの問題を抱えると同時に、大浴場、客室、調理場へのお湯の安定供給とエネルギーコストの削減が大きな課題となっていた。

そんなとき、省エネサービスプロバイダー事業を手掛ける(株)スマート・リソースから空冷式ヒートポンプ

新規導入の提案があった。空冷式ヒートポンプを導入し、省エネを図ることでエネルギー料金のコストダウンが実現できる。しかも費用の一部は、国からの補助金でまかなえるという話を聞いた佐藤氏は、施設責任者の野村昌徳氏に相談。さまざまな検討を重ねるなか、野村氏がコンサルティングを行っている栃木県のゴルフ場がヒートポンプを導入し、満足な結果を得られていることがわかった。

また、「かなみスプリングスCCに隣接するゴルフ場の給湯設備も(株)スマート・リソースが設備の更新を手がけていることを関係者から聞いたことが設備導入の決め手となった」と佐藤氏は話す。その結果、2021年末に設備の更新を決定。同時に「令和2年度産業・業務部門における高効率ヒートポンプ導入促進事業補助金」を申請し、補助金の交付が決定した。

ガスボイラと空冷式ヒートポンプによる ハイブリッドシステムで省エネルギー・省コストを実現

2022年2月から新しい給湯設備の運用が開始された。新しいシステムは、空冷式ヒートポンプにより、給湯負荷の少ない時間に貯湯槽にお湯を貯め、蓄熱以外の時間は循環加温といったベース運転で利用し、浴槽の湯はりや給湯利用者の多い時間帯は、新設したガスボイラによる追い炊きを行うハイブリッド方式を採用した。「電気・ガス料金の単価の変動もあり、導入前と単純



富士山を望む大浴場



貯湯槽と温水タンク



ホテル屋上に設置された空冷式ヒートポンプチラー

導入のポイント

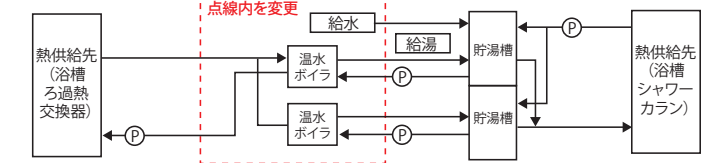
- 1 エネルギーコストの削減
- 2 国からの補助金の活用
- 3 ハイブリッド方式によるお湯の安定供給

活用した補助制度

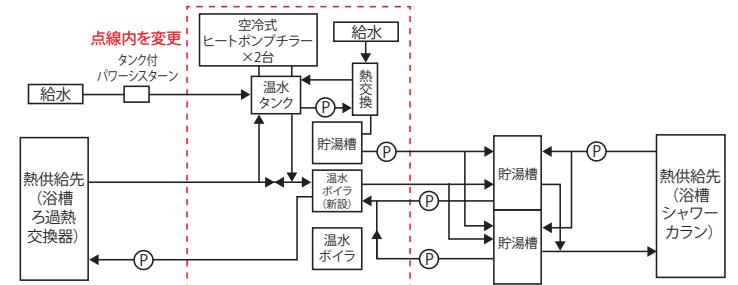
- ・令和2年度 産業・業務部門における高効率ヒートポンプ導入促進事業費補助金(環境共創イニシアチブ)

システム図

既存システムフロー



設備導入後のシステムフロー



には比較できないが、昨年の同時期と比較すると、運用開始から5か月間の電気の使用量は、ほぼ変わっておらず、ガスの使用量は平均で約56%削減され、省エネルギー・省CO₂・省コストの効果を実感しています」と佐藤氏。ベースはヒートポンプのみを使い、時間帯や宿泊客数に応じて空冷式ヒートポンプとガスボイラをうまく使い分けるなどの工夫をしているとのこと。

「給湯設備が故障する不安が軽減され、メンテナンスもラクになった(給湯設備の担当者)」など、スタッフ

からも好評を得ている。

「今後、ガスボイラが故障したときにヒートポンプを増設するか、それともガスボイラを更新するのが課題。これからデータを取りながら、対応を検討したい」(佐藤氏)。

ホテル内の照明を順次LED照明に交換するなど、給湯設備以外でも積極的に省エネルギー・省CO₂に取り組んでいきたいと話す。

INTERVIEW

安定した給湯と省エネルギー・省コストを実現

ホテルの大規模な改築を行わずに設備を導入できたので、工事中もお客さまへの変わらぬサービスを継続できました。給湯設備の故障という不安もなくなり、安定した給湯と省エネルギー・省CO₂・省コストが実現できたので、満足しています。

かなみスプリングスカントリークラブ支配人 佐藤 勇作氏



空冷ヒートポンプ導入の水平展開を検討

かなみスプリングスカントリークラブの空冷ヒートポンプの導入事例を参考にして、当社のお客さまであるゴルフ場の省エネルギー・省コストを考える際の好事例として展開していきたいと思います。

かなみスプリングスカントリークラブ 施設責任者 野村 昌徳氏



DATA

ホテル函南
所在地：静岡県田方郡函南町桑原1300-146
設備概要：空冷ヒートポンプチラー 150kW×2台(三菱重工)、貯湯槽12㎡、温水タンク1㎡、熱交換機、温水ボイラ 1,410kW×2台
交通：JR東海道線「函南駅」下車。送迎バス(無料、要予約)あり。
電話：055-974-1000(代表)



空冷式ヒートポンプチラー(左)と大型ハウス

有限会社遠藤きのご園

空冷式ヒートポンプチラーの導入で シタケ栽培の燃料費削減に取り組む

きのご園の再興を目指し、 前職を退職して父の後を継ぐ

福島県双葉郡川内村の山間部に位置する有限会社遠藤きのご園は、1972年からシタケ栽培を始めて今年で50年を迎えた。長年に渡り順調だった経営は、2011年3月11日、東日本大震災により一変。遠藤氏のご家族は、きのご園を放置したまま郡山市での避難生活を余儀なくされた。

「両親が長年続けてきた家業をここで終わらせることはできないと思い、前職を退職し、2016年に就農しました」と話すのは、父の跡を継ぎ、きのご園の経営者となった代表取締役の遠藤雄夫氏(46)。きのご園と川内村の再興を目指して、遠藤氏の新たな挑戦が始まった。

新しいシステムを導入し、 高品質のシタケ栽培に挑む

遠藤氏は各種の補助金を活用し、培養棟施設の建設、高圧殺菌圧力釜や袋詰め機、冷凍機など、次々に新しい設備を導入。現在は、空冷式マルチエアコンを導入したハウス8棟、パイプハウス12棟、培養室4棟を所有し、外国人技能実習生を含め12名のスタッフで菌床づくり、培養、栽培を手がけ、年間120トンのシタケを生産。10月から2月までが出荷の最盛期となっている。

ここ数年で大手企業のシタケ栽培への参入増加や海外から輸入された安い菌床が出回るなど、経営環境

は年々厳しくなっているという。そのため遠藤氏は、他社との差別化を図るため、労力を惜みず、より肉厚で軸が太い高品質のシタケ栽培に尽力している。

空冷式ヒートポンプチラーの導入で、 燃料費をコストダウンし、作業環境も改善

シタケ栽培の大型ハウス4棟にヒートポンプチラーを導入したのは、2022年2月のこと。これまではハウス内の加温には石油を使っていたが、近年石油価格が上昇してきたことから、燃料費のコストダウンが課題となっていた。そんなとき、ヒートポンプの施工会社であるENEX(株)の社長と知り合い、「ヒートポンプチラーを使うと、燃料費のコストダウンができる」とアドバイスもらった。

「省エネ効果が期待でき、補助金も受けられるということでヒートポンプチラーの導入を決めた」と遠藤氏。菌床は、20℃前後の培養室で約120日間培養するが、外気温が高い夏季は、ハウス内に散水して温度を下げている。朝夕の気温が下がる時間帯は、ヒートポンプチラーで温水を作ってパイプに流し、ダクトからハウス内に温風を排出し最適な室温をキープしている。培養完了後の発生工程では、最初は室内の温度を20℃から25℃の間に設定し、徐々に15℃まで下げてシタケを発生させ、栽培中も15℃をキープする。

「導入から7か月が過ぎたが、外気温によって何度の温水を作れば、ハウス内が適温に維持できるのかが、まだ手探り状態。現状、燃料の使用量が減った分エネ



空冷式ヒートポンプチラー



大型ハウス入口



肉厚で軸が太い「ひたむき椎茸」



シタケの発生状況を確認する遠藤雄夫氏



発生室で栽培中のシタケ

導入のポイント

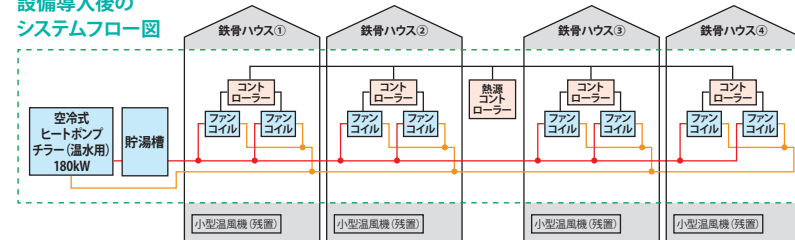
- 1 エネルギーコストの削減
- 2 国からの補助金の活用
- 3 労働環境の改善

活用した補助制度

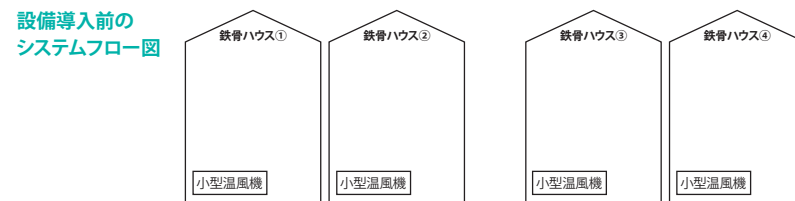
- ・令和2年度 産業・業務部門における
高効率ヒートポンプ導入促進事業費補助金
(環境共創イニシアチブ)

設備導入前後のシステムフロー比較図

設備導入後のシステムフロー図



設備導入前のシステムフロー図



ルギーコストはかなり下がったと実感している。今後、試行錯誤しながらデータを取り、より高い省エネルギー効果を発揮できるようにしたい」と遠藤氏。燃料を使わないことで、燃焼時の嫌な臭いがハウス内にこもることがなくなった。また、故障する不安が軽減され、メンテナンスがラクになったことで作業環境も改善されスタッフもとても喜んでいるという。

高品質のシタケで震災復興に寄与したい

将来的には、すべてのハウスの加温を空冷式ヒートポンプチラーで行い、シタケの生産量増加と高品質化を目指したいと話す遠藤氏。省エネルギーによって生産コストを下げ、高品質のシタケ栽培を行うことを目標にしている。肉厚で軸が太く、通常の1.5倍の大きさが特徴の現在出荷している「ひたむき椎茸」は評判も良く、東京の高級料理店でも使用されている。また、より多くの人に川内村のシタケの良さを知っていただけるようにネット販売を拡大することも検討している。

「最新技術を導入して高品質のシタケを栽培することで、川内村の震災復興に少しでも寄与できればうれしい」と話す遠藤氏の挑戦は続く。

INTERVIEW

ヒートポンプチラーを 最大限に活用したい

現在、1台の空冷式ヒートポンプチラーで、大型ハウス4棟の加温を行っています。隣接する土地に大型ハウスを増築したときに、現行のシステムで対応が可能かどうか検証し、この空冷式ヒートポンプチラーの能力を最大限発揮できるように効果的な使い方を学びたいと思っています。

有限会社遠藤きのご園 代表取締役
遠藤 雄夫氏



DATA

有限会社遠藤きのご園
所在地：福島県双葉郡川内村大字上川内字舘ノ沢503-7
設備概要：空冷ヒートポンプチラー(温水利用) 180kW×1台(東芝キャリア)
電話：0240-38-2518